

よいたしかな安全性と味を求めて



発信者
(有)アグリクエイト内有機栽培あゆみの会 有機栽培あゆみの会
TEL 029-894-4360 FAX 029-894-4366

〒300-0626
茨城県稲敷市甘田1689 茨城県稲敷市甘田1689
事務局 丸山 訓

拝啓 時下益々御清栄のことと御慶び申し上げます。日頃は格別なる御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、勉強会のレポートをホームページに載せました。その抜粋をファックスでもレポートをお送り致します。ぜひ、ご覧頂き、今後の参考にして頂ければと思います。 敬具

【2012.10.15 丸和さん勉強会】

◆水により人参の夏場の生育障害を予防する

夏場に雨が降らず猛暑が続く事で、8月は問題無く見えた人参が、9月、10月と外葉が黄色く枯れ始めたり茎の本数が足りなかったり、茎の付け根が盛り上がるなど2次生育が起きるなどの現象が現われました。その原因は水不足によるもので、水不足によって現われる障害を学ぶ必要性、そして、今後、猛暑が続く夏場は本葉が5枚ぐらいになっても水をあげ続けることが大切、という新たな常識を学びました。

水不足による障害を知り、灌水をし続ける

■水不足によって窒素が切れることで現われる生育障害を知る
本葉が出たらすぐに子葉がなくなり、9月に外葉が黄色く枯れ始め、10月になっても茎数が10本に届かず、水不足による窒素切れによって現われる生育障害である。また、茎葉にツヤが無く、肌がカサカサというのも水不足によって現われる障害であることを知る。

■2次生育によって現われる生育障害も知る

水不足による窒素切れで生育が止まると体が一度硬くなる。その後雨が降り窒素が来ると、細胞が固まっているため真ん中が伸びたり曲がったりねじれるという現象が現われるという事も知る。

■初期生育時はもちろん、本葉5枚になっても水をあげ続ける

夏場は水不足や高温障害を防ぐために灌水を続けることが大切。

詳しくは「あゆみの会のホームページ」にビデオやレポートがアップされています。その他、何かございましたら、事務局の丸山までご遠慮なくお問い合わせ下さい。

TEL 029-894-4360 メール：maruyama@agricreate.co.jp